

環境への取り組み

マブチモーターは、「マブチグループ環境方針」を制定し、環境に配慮した製品を作り出すだけでなく、開発・設計から生産工程・流通に至るまでのサプライチェーン全体にわたって環境負荷の低減に取り組み、地球環境と人々の健康を犠牲にすることのない企業活動を行っています。

マブチグループ環境方針

私たちは、地球環境と人々の健康を犠牲にすることのない企業活動を行い、環境マネジメントシステムを通じて継続的改善に努め、持続可能な社会を目指します。

- 環境関連の法規制及びその他の要求事項を順守するとともに、環境汚染の予防・防止に努め、事業活動が環境に与える影響を常に認識し、自主基準を設定して管理します。
- 持続可能な社会の実現を目指し、事業活動に伴う主要な環境負荷を軽減するため、以下について重点的に取り組みます。
 - 気候変動問題に対応するため、カーボンニュートラルに向けたCO₂の削減と限りある資源を有効活用するために、省エネルギー、再生可能エネルギー、省資源化、リサイクル及び廃棄物の減量化に積極的に取り組みます。
 - 製品及び製造過程において、環境負荷物質の管理を徹底し、環境に負荷を与える物質は可能な限り代替物質への転換を行います。
 - 環境に配慮した部品・材料を積極的に使用する“グリーン調達”を行います。
 - 環境配慮型製品の開発・販売を促進し、社会全体の環境負荷低減に貢献します。
 - 生物多様性の保全を企業の重要な課題と認識し、生態系に配慮した取り組みを推進します。
- 社員一人ひとりの環境に対する意識の高揚を図るため、積極的に教育活動を行います。
- この環境方針は、全社員に周知するとともに、社外に公表します。

マブチモーター株式会社 代表取締役社長 高橋 徹
制定：1998年9月27日／改訂：2024年3月28日

環境マネジメントシステム

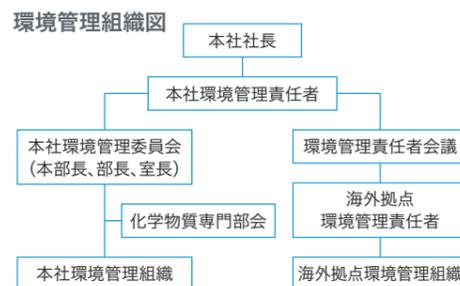
当社は、地球環境との調和やその保全を重要なテーマと考え、ISO 14001国際規格に準拠した環境マネジメントシステムを構築し、継続的に環境活動に取り組んでいます。

マブチグループの環境管理組織

当社では、本社の社長がグループ全体を統括し、本社の品質保証本部長が環境管理責任者としてグループ全体の環境マネジメントシステムを管理しています。

当社では「環境管理委員会」を設置し、本社の環境管理責任者が委員長となり、部長・室長で構成されたメンバーで、マブチグループの環境方針、環境目標、施策などの審議、決定を行います。

また、環境管理委員会の下には、化学物質専門部会を設置し、専門的な施策を提案し環境保全活動を推進しています。



各種法令の順守

欧州RoHS指令、欧州ELV指令、欧州REACH規則制限物質・SVHC(高懸念物質)、日本の化審法^{*} 第一種特定化学物質、GADSL(自動車業界自主基準)、その他の法規制、お客様からの要求、マブチグループ自主基準等による、規制物質の追加、禁止ランクの変更等、将来を見据えた対応を行っています。

日常のお取引先様とのコミュニケーションや、環境負荷物質の使用・保管状況の監査活動に対する積極的な取り組みにより、2006年の欧州RoHS指令の施行から現在に至るまで、環境事故は一度も発生しておりません。

今後も、お客様、お取引先様とともにグリーン調達活動を進めてまいります。

^{*}化審法：化学物質の審査及び製造等の規制に関する法律

気候変動問題への対応

当社は、国際社会にとって喫緊の課題である気候変動問題に対応するため、2050年のカーボンニュートラルに向けた活動を推進しています。2023年5月には「GXリーグ^{*}」へ参画しており、温室効果ガスの排出量削減の取り組みを加速させています。

また、「2030年までにCO₂排出量を2018年比30%削減」とする中期目標を設定しています。そのための施策として、太陽光発電システムの設置や排熱を回収して再利用するシステムの採用等、再生可能エネルギーの活用や生産設備の省電力化をはじめとするCO₂削減の取り組みを推進してきました。脱炭素社会の実現に向けて、これらの取り組みを着実に進めていきます。

※GXリーグ：2050年カーボンニュートラル実現と社会変革を見据え、GX(グリーン・トランス・フォーメーション)に積極的に取り組む企業が、同様の取り組みを行う企業群や官・学とともに協働し、経済社会システム全体の変革に向けた議論と新たな市場の創造のための実践を行う場として経済産業省が設立。

再生可能エネルギーの導入

当社は、再生可能エネルギーの導入によるCO₂排出量の削減に取り組んでいます。日本の本社、中国の東莞マブチ、道ジャオマブチ、ベトナムのダナンマブチに設置した太陽光発電システムでは、2023年に約365万kWhの電力を発電し、それぞれの事業所にて使用しています。また、2024年4月から、再生可能エネルギー由来の電力プラン利用により、本社で使用する電力の実質的な再生可能エネルギー^{*}100%を実現しました。今後も、再生可能エネルギーの導入を計画的に進めていきます。

※電力の実質的な再生可能エネルギー：FIT 非化石証書の購入、自社社屋に設置した太陽光発電による電力を利用



本社に設置された太陽光発電システム

資源の有効活用

廃棄物削減への取り組み

当社は、廃棄物を資源として回収・再利用し、埋立廃棄するものを削減する循環社会の実現を目指し、「廃棄物リサイクル率を95%以上」とする目標を設定しています。循環社会の実現には、廃棄物そのものを少なくすることに加え、発生した廃棄物を資源として、再利用することが重要かつ不可欠なポイントとなります。現在のリサイクル率に加えて2023年よりサーマルリサイクルを含めない場合のリサイクル率の集計を開始しており、その場合のリサイクル率向上のため、当社では環境マネジメントシステムにおける目標として、可燃物削減の取り組みを行っています。今後も、マブチグループ全体で廃棄物の削減及び再利用(リサイクル化)の取り組みを推進していきます。

廃棄物削減に向けた指標と2023年の取り組み

目標 — 廃棄物リサイクル率 **95.0%以上**

実績 — 廃棄物リサイクル率 **97.9%(達成)**

廃棄物排出量



水資源有効活用の取り組み

水資源を大切にするため、積極的に雨水を活用しています。当社では1991年より雨水を利用しており、グループ内各拠点でも積極的に雨水を利用しています。

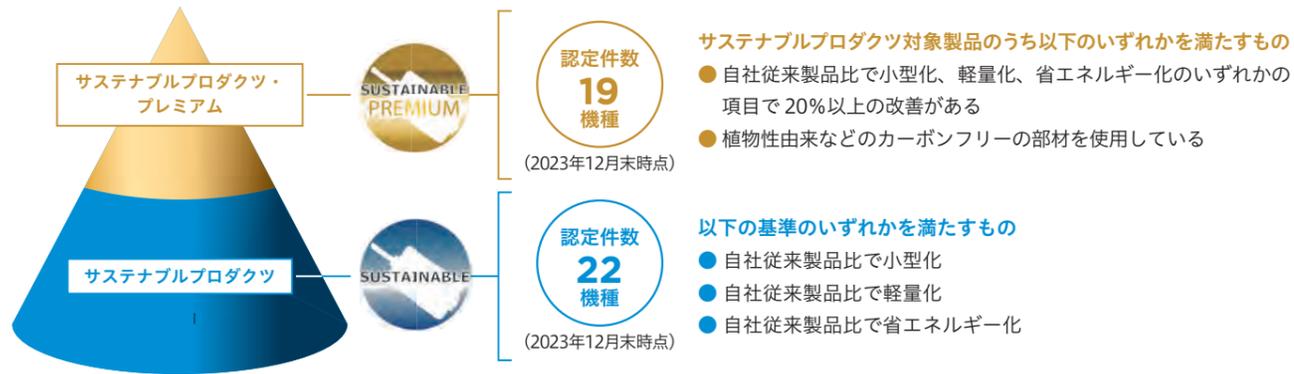
また、江蘇マブチをはじめグループ内各拠点では、工場内に廃水処理施設を建設し、ここで処理された水の一部を植木散水やトイレ用水などに再利用しています。今後も事業による水への影響を確認しながら、水資源の保護に努めていきます。

環境への取り組み

環境配慮型製品の創出

当社は小型・軽量・高効率のモーターを標準化し、無駄のない生産・販売を行うことで、お客様の製品の小型・軽量・省エネルギー化を実現し、社会全体の環境負荷の低減に貢献しています。その中でも特に環境貢献に優れた当社製品を、「サステナブルプロダクト」または「サステナブルプロダクト・プレミアム」として社内認定する制度を2022年6月より導入しました。環境配慮型製品の開発・販売を促進することにより、社会全体の環境負荷低減に貢献していきます。

製品の企画段階から目指す環境性能の方向性を設定し、その後の開発・設計、製品化といった各段階においても環境性能の確認を行い、最終的に基準を満たした製品を「サステナブルプロダクト」または「サステナブルプロダクト・プレミアム」として認定します。



生産工程での環境配慮

モーター部品だけではなく、生産工程上で使用される環境負荷化学物質に始まり生産設備・機械等の省電力化並びに社員の作業環境の向上に至るまで、様々な環境負荷低減活動を積極的に推進しています。

インターナル・カーボン・プライシング (ICP) 制度の導入

ICP制度は、社内における炭素価格を設定し、CO₂排出量を費用換算することで、排出量削減に対する経済的インセンティブを創出し、社内で気候変動への対応を促す仕組みです。CO₂排出を伴う設備の投資計画の際に、設定する社内炭素価格を適用し仮想的な費用に換算することで、設備の選択、投資判断の一つの要素として考慮し、運用しています。

マブチモーターのICP制度

- 社内炭素価格：11,000 円 / t-CO₂*
- ※ 海外拠点においては社内為替レートをを用い換算。排出権の価格変動などを考慮し適宜見直しを行う
- 制度対象：CO₂排出を伴う設備の投資
- 適用方法：CO₂排出を社内炭素価格の適用により費用換算し、設備の選択、投資判断の一つの要素として考慮

グリーン調達への推進

昨今の調達活動では、原材料の資源採取から、製造・加工、流通・販売、消費・使用、及び廃棄・リサイクルに至る製品ライフサイクルにおいて、環境負荷の少ない製品の開発に取り組むためには、自社だけの環境保全活動では十分とは言えません。そこで、お取引先様の各種環境への取り組み状況も評価し、お取引先様とともに、環境負荷の低減や環境リスクの回避を図っています。

お取引先様には、グリーン調達活動を実施の上、環境活動調査表とともに、原材料・部品に環境禁止物質が含まれないことを保証する書類を提出いただき、お取引先様の環境負荷物質の使用・保管状況を確認するための環境監査も積極的に実施しています。さらに、マブチグループで使用している全部材について、環境禁止物質が含まれていないかの分析調査も定期的に行っています。

生物多様性保全の取り組み

地域における環境共生

本社敷地前庭には、地域における環境共生をコンセプトに「ビオガーデン」を設け、本社が所在する松戸市の自然環境が松飛台工業団地に復元されるよう考慮しています。ビオガーデンでは、外来種による地域の生態系への影響を考え、従来から松戸市周辺に育つ野草を植栽しながら、本来の生態系の復元を目指しています。

また、都市におけるヒートアイランド現象の緩和に効果があるとされる屋上緑化を行っており、本社屋上に庭園を設けています。休憩時間に社員同士のコミュニケーションの場ともなっています。

2024年より、加入した公益財団法人日本自然保護協会と連携し、当社の生物多様性に関する活動を更に進めていきます。



本社前庭のビオガーデン



本社屋上の庭園

主な取り組み

- 千葉県指定絶滅危惧種「ヒメコマツ」を育成
- ビオガーデンの維持・管理として、外来種のセイタカアワダチソウを駆除
- ちば生物多様性ネットワーク活動：生物多様性サテライトを更新

社員や来訪者に対して生物多様性の大切さの理解を促進するため、本社食堂内に「生物多様性サテライト」を設置し、ポスターやニュースレターを掲示しています。

環境コミュニケーション

環境活動は、社員一人ひとりが環境方針を理解し、自発的に行動することが重要であると考えています。このような活動ができる人材を育成するため、体系的環境教育・訓練システムを作り、実施しています。本社及び各関係会社毎に、すべての社員が受講しなければならない「一般教育」を基礎教育として設け、さらに階層別、職場・業務別の環境教育・訓練システムを構築しています。

社員発信の環境負荷低減活動の表彰

マブチグループ全拠点から環境負荷低減に寄与した活動施策・実績を募集し、本社の環境管理委員会による審査を経て優れた活動を表彰する「マブチグループ環境活動」に取り組んでいます。2023年には、「CO₂排出量削減」を活動テーマに15拠点から合計87件の応募があり、様々な施策が行われました。今後も、マブチグループ環境活動を通じて、マブチグループ各拠点における環境負荷低減を実現する施策の提案・実行を促進することで、地球環境への貢献を拡大していきます。

TOPICS

ポーランドマブチでの活動事例

ポーランドマブチでは、主要生産エリアに空気を供給する換気ユニットにおいて、外気温度を効率的に利用し冷暖房に係る消費エネルギーを削減するため、外気温度と生産エリア内の温度に応じて動作を制御する循環型の換気システムに組み換え、年間およそ414tonのCO₂排出量削減を実現しました。

